

第68回地域連携手帳委員会（略称：手帳委員会）会議記録

日時 令和8年6月18日(木) 13時30分～14時05分

会場 新津医療センター病院 大会議室

参加者 12名 欠席 11名

1 連携手帳の現状と問題点

- ・地域連携手帳「コミュニケーション欄」ページの在庫不足
秋葉区で予算だてしていたが、今後は出来ない事になった。
在庫は秋葉区で200部、新津医療センターに400部
年間使用量は300～400部
緑紙面のみで1枚10円
今後1年余りで無くなる計算。
事務局案
当面、紙面を購入し事務局で作成。原材料費のみ連携運営会費から賄うことで
連携運営委員会に諮りたい。

異議無し

2 連携手帳の発展的活用

いろいろなシートを開発してきたが、やはり基本のページとバイタル、コミュニケーション欄の使用に限定されてきているようである。

3 新潟市秋葉区における IT 連携の現状

- ・本年2月に下越クリニックの児玉先生と活用している団体から講師となってもらい
スワンネット活用拡大に向けた活動を開始した。
- ・現在スワンネットに加入している事業所一覧配布・・黄色部分は5月に新規加入
- ・新津医療センター病院におけるスワンネット活用推進チームの活動報告 別添資料
活用拡大に向けての目標の設定
訪問診療での試行的使用を経て事例の紹介
スワンネット利用の登録、同意、招待方法などフローチャート化
現在の課題などを紹介

改めて、スワンネットの活用拡大への取り組みに向けて手帳委員会でも協力していく
ことを確認。

4 地域連携手帳委員会の今後のあり方について

開業医

もともと、情報共有のあり方ということでこの会が発足。連携手帳が誕生し連携方法の統一が成された。

現在、ICT スワンネットを含む情報共有と言うことであれば、情報共有の会といった形が相応しいのかもしれない。

訪問看護

両方を使用しているが ICT スワンネットはこれからというところ。

コミュニケーション欄はとても重要であり、この会は活用事例など考えるうえでも存続してほしい。

看護小規模

スワンネット活用の人がない。イメージがわからない。現状では手帳のままか。

デイサービス

ICT は使っていないのでコメントできないが、手帳の活用、事例紹介などでこの会は活かすべきではないか。

特養

手帳は情報共有に欠かせない。ICT はハードルが高い。

厚労省のケアプラン連携システムで四苦八苦の状況。

ケアプランセンター

ケアマネの移動距離が長く、ICT 化できればとの思いがある。

訪問看護の状況が分からないなど解消出来る可能性がある。

手帳のコミュニケーション欄はとも重要である。

以上のような意見が出された。

5 次回の手帳委員会

令和8年9月17日（木）13時30分～

会場 新津医療センター病院 大会議室

以上